

一般社団法人いんくるぱれっと こどもでいさーびす はるいろ 児童発達支援評価表
平成30年度 事業所における自己評価の結果(公表)

公表:平成31年3月31日

事業所名:こどもでいさーびす はるいろ(児童発達支援)

		チェック項目	はい	いいえ	「工夫している点・課題や改善すべき点」の回答を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	8 (100%)	0 (0%)	設問3参照
	2	職員の配置数は適切であるか	4 (50%)	4 (50%)	他のデイサービススタッフからのヘルプ勤務を要請し、柔軟に対応にあたっています。 内外の研修、OJTなどによる既存スタッフのスキルアップと、看護師の増員が課題となります。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6 (75%)	2 (25%)	設問1と関係して、スペースの確保、空間の区別、増設等今後も議論していきます。構造化についても、引き続き検討していきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	6 (75%)	2 (25%)	業務改善は常に大きな課題です。組織的に対応できるように新体制において改善の方向性の段階から話し合っています。
	5	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	5 (63%)	3 (38%)	今回が本様式を用いた初の事業所評価となります。今回のまとめを共有し、優先順位を考えながら業務改善に取り組んでいきます。
	6	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	2 (25%)	6 (75%)	今回が本様式を用いた初の事業所評価となり、公表も行います。同時に、ホームページが皆さんにとってより有用なものになるよう、法人レベルで検討を重ねてまいります。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	1 (13%)	7 (88%)	

	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	3 (38%)	5 (63%)	本年度は研修参加の機会が殆どなく、内部研修も行う事ができず大いに反省点として残っています。業務改善の目標の一つとして、外部研修に出られる程に現場でのゆとりを創生することがあげられます。必要な知識、技術を学び、スタッフミーティングなどで共有すること、OJTなどでスタッフ全員のスキルアップを目指すことといった、脂質の向上へむけた土壌づくりを次年度1年で取り組んでまいります。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	7 (88%)	1 (13%)	アセスメントとニーズ等の聞き取りなどから、支援計画を作成する流れを創生できたので、次年度以降はその定着化と、よりスムーズなPDCAサイクル状態にしていくことが課題となります。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	3 (38%)	4 (50%)	適応行動についてのみいえば、必要に応じてVineland- IIという標準化された適応行動尺度を使用する用意はできています。ただし、アセスメントの一部として捉えており現在実績はなく、今後利用児童全員に実施するか、どのような場合に実施するかといった議論を深めていくこととなります。
	11	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	8 (100%)	0 (0%)	個別支援計画書内に「ガイドライン項目」欄を設け、明記するようにしています(一部実施済み)。
	12	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	7 (88%)	1 (13%)	計画内容の共有を徹底していきます。
	13	活動プログラムの立案をチームで行なっているか	6 (75%)	1 (13%)	「はい」の回答が多数である一方、うまくできていないという意見もありました。ガイドラインにおいては活動プログラムについて、「児童発達支援の提供すべき支援の内容等(発達支援における本人支援の「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」および移行支援、家族支援および地域支援)を十分に踏まえ」、「子どもの障害種別、障害特性、発達段階、生活状況や課題等に応じた内容を組み立て」ることが期待されています。全体で見識を深め、かつ夫々の専門、視点から幅広い意見が出されることで、チームで支援内容を深めることができます。設問2、3、8で挙げられた改善を進めつつ、業務分担による適正な運営の上で、日頃より意見の言い合える職場環境づくり、ミーティングづくりを進めていきたいと考えています。

	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7 (88%)	1 (13%)	同上
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	7 (88%)	1 (13%)	
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	7 (88%)	1 (13%)	シフトや送迎対応の関係上、全員の参加が難しいことはあるが、担当や分担の確認については部分的にできています。可能な範囲での実施と、全員への情報伝達手段として、連絡ノートなどの適正な活用をすすめていきます。
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6 (75%)	2 (25%)	
	18	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	5 (63%)	2 (25%)	部分的にできている。個別支援計画をベースとしたスタッフ全員での記録の蓄積を次年度から徹底していきたい。
	19	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	7 (88%)	1 (13%)	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5 (63%)	2 (25%)	
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	8 (100%)	0 (0%)	引き続き連携を深めていきます。
	22	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の在宅支援のために、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	8 (100%)	0 (0%)	
	23	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	7 (88%)	0 (0%)	
	24	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	3 (38%)	5 (63%)	部分的にはできていますが、センターや特別支援学校主催の研修会への参加や、見学の機会を通じて情報共有ができる関係づくりに積極的に取り組んでいくことが課題となります。
	25	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	3 (38%)	3 (38%)	
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	1 (13%)	7 (88%)	
	27	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動をする機会があるか	0 (0%)	8 (100%)	

連携	28	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	0 (0%)	8 (100%)	
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	7 (88%)	0 (0%)	連絡帳や送迎時、面談時に実施できています。今後も保護者の皆様と共通理解を深めていきたいと考えています。特に支援に関わることは適切な形でスタッフ全員の周知を図らせていただき、はるいろでの活動に生かしていきたいと思えます。
	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか	1 (13%)	7 (88%)	ペアレント・トレーニングなどの家族支援プログラムを(厳密な意味で)当デイサービス主体で行っていく計画は今のところございません。ただし、スタッフの知識・技術をより高め、発達段階、障害特性等に応じたご家庭でも役立つ関わり方等の助言ができるよう、新年度以降では、外部研修への参加、内部研修の実施を増やしていきます。
保護者への説明責任等	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6 (75%)	0 (0%)	これらの内容について説明をさせていただいております。運営規程に関して、事業所正面に閲覧可能な形で掲示もしておりますが、必要に応じて説明の際に参照できるよう準備いたします。
	32	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	7 (88%)	0 (0%)	ガイドラインを用いた説明は今までさせていただいておりませんでした。必要に応じて取り扱うことができるよう、準備をしております。また、個別支援計画書内に「ガイドライン項目」欄を設け、明記するようにしています(一部実施済み)。
	33	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7 (88%)	1 (13%)	定期的な実施ができるよう、それぞれのご家庭のご要望を踏まえた上で改善策を検討してまいります。
	34	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	4 (50%)	3 (38%)	はるいろ側からの保護者会等の開催はありませんが、イベント等の際にご家族様同士のコミュニケーションが図れる機会を作れるよう、引き続き配慮してまいります。会を主催することに関しては、今後みなさんのご意見を参考にして検討してまいります。
	35	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	8 (100%)	0 (0%)	すぐに対応できるよう職員間での情報共有に力を入れるようにしております。今後も引き続き善処してまいります。
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7 (88%)	1 (13%)	業務改善を図り、広報をより充実させてまいります。

	37	個人情報の取扱いに十分注意しているか	8 (100%)	0 (0%)	
	38	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	8 (100%)	0 (0%)	今後も引き続き善処してまいります。
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1 (13%)	7 (88%)	地域資源のひとつとしての事業所の役割を考え、皆さんにご理解いただけるよう、可能な範囲での実施を検討してまいります。
非常時の対応	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	8 (100%)	0 (0%)	円滑な運用と十分な周知を次年度以降も目指してまいります。訓練などの実施を皆さんに知って頂けるよう広報などでお知らせしてまいります。
	41	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6 (75%)	2 (25%)	
	42	事前に、予防接種やてんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	7 (88%)	0 (0%)	
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	6 (75%)	0 (0%)	
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4 (50%)	4 (50%)	日々の危険箇所の把握は部分的にできているが、ヒヤリハットを収集、分析するまでは至っておりません。早急に改善していきます。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	4 (50%)	4 (50%)	次年度の新体制において、必ず1名、市の虐待防止研修に参加し、ミーティングなどにおいて共有していけるようにいたします。また、虐待等防止マニュアルの職員での周知を今後も深めてまいります。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	7 (88%)	1 (13%)	説明、了承の流れはできていますが、組織的な対応は現在、改善進行中です。同時に、職員での周知を今後も深めてまいります。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。